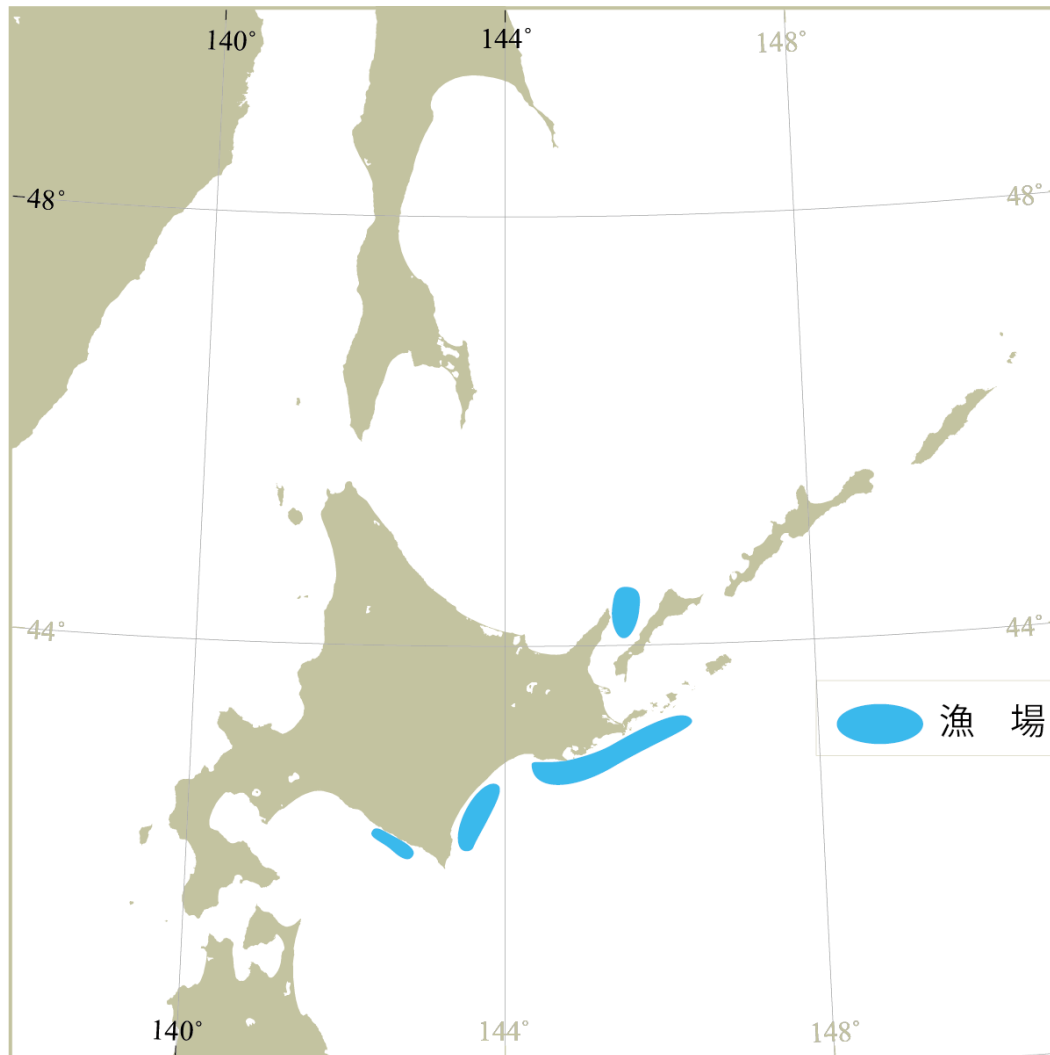




ホッケ

根室海峡・道東・日高・胆振
令和5年度資源評価結果

生物学的特性

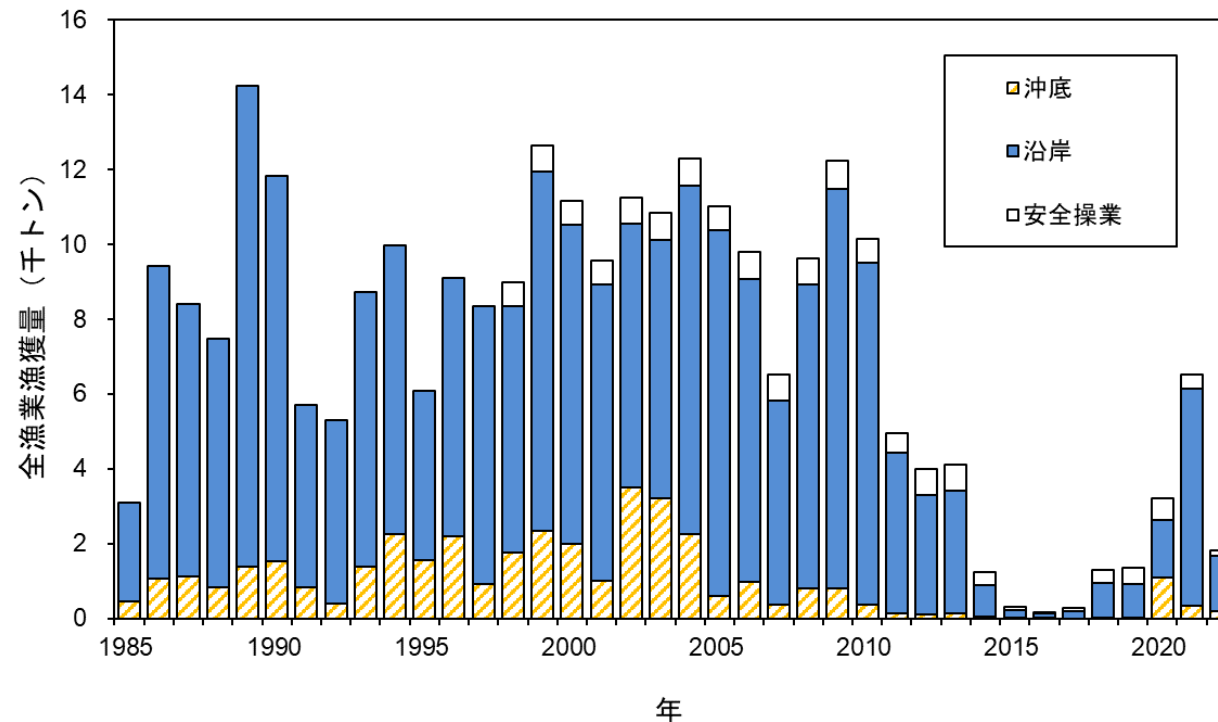


生物学的特性

- 寿命：10歳を超える
- 成熟開始年齢：雌は2歳（約30%）、3歳（約100%）
- 産卵期・産卵場：
10月中旬～11月中旬（知床半島先端海域）
産卵場は日高、知床半島先端海域など
- 食性：
仔魚期はカイアシ類
未成魚期はヨコエビ類
岩礁周辺に定着し始めると、
魚類、魚卵、イカ類、エビ類、
ヨコエビ類、オキアミ類など
- 捕食者：不明

- 主漁期は、春の索餌期と秋の産卵期

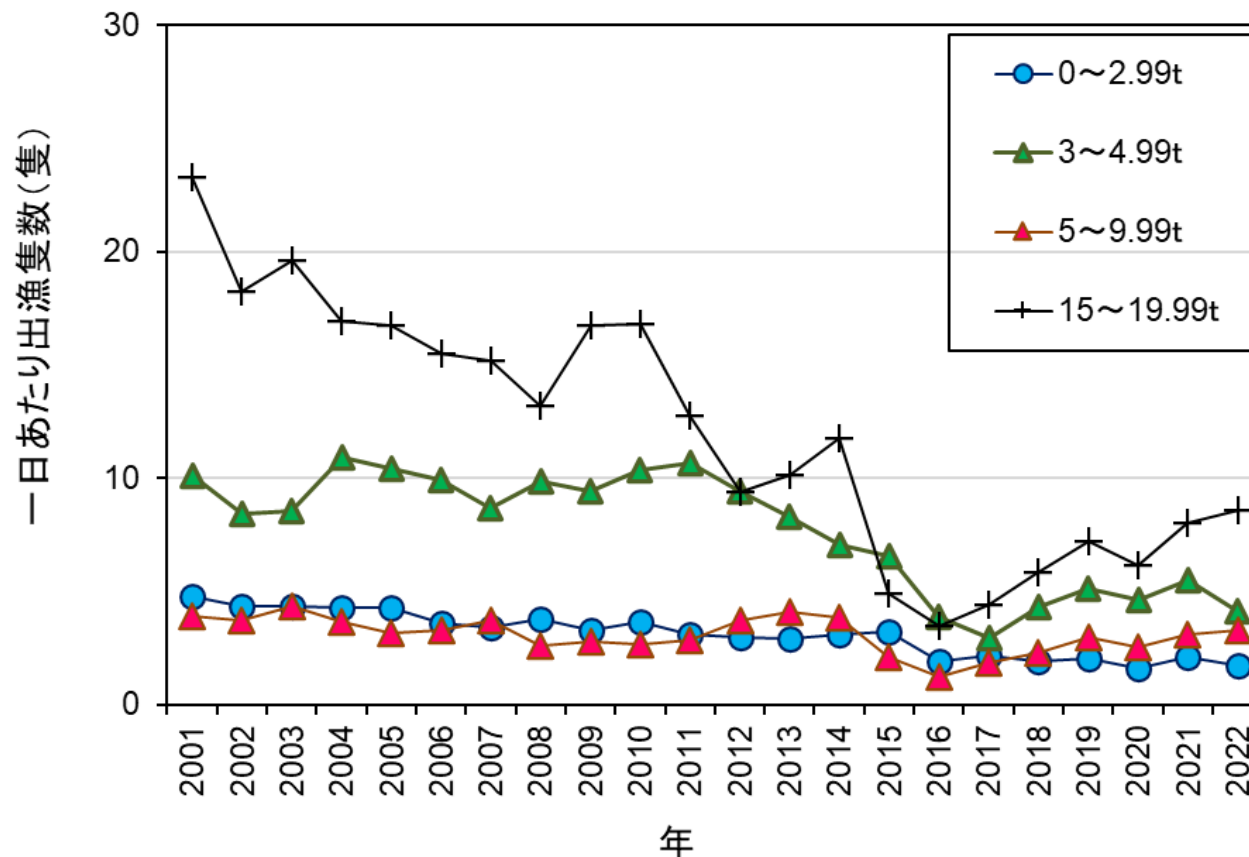
漁獲の動向①



- 総漁獲量 2022年：1,659トン（2021年：6,134トン）
- 沿岸漁業（刺網、定置網など）の割合が高く、ほとんどの年で7割を超えている
- 2020年に沖合底びき網漁業（沖底）の漁獲量、2021年は沿岸漁業の漁獲量が急増したが、2022年は沿岸漁業で急減した

※ 総漁獲量：安全操業（「北方四島周辺水域における日本漁船の操業枠組み協定」に基づき、1998年から北方四島周辺水域で行われている日本の沿岸漁業）を除く漁獲量

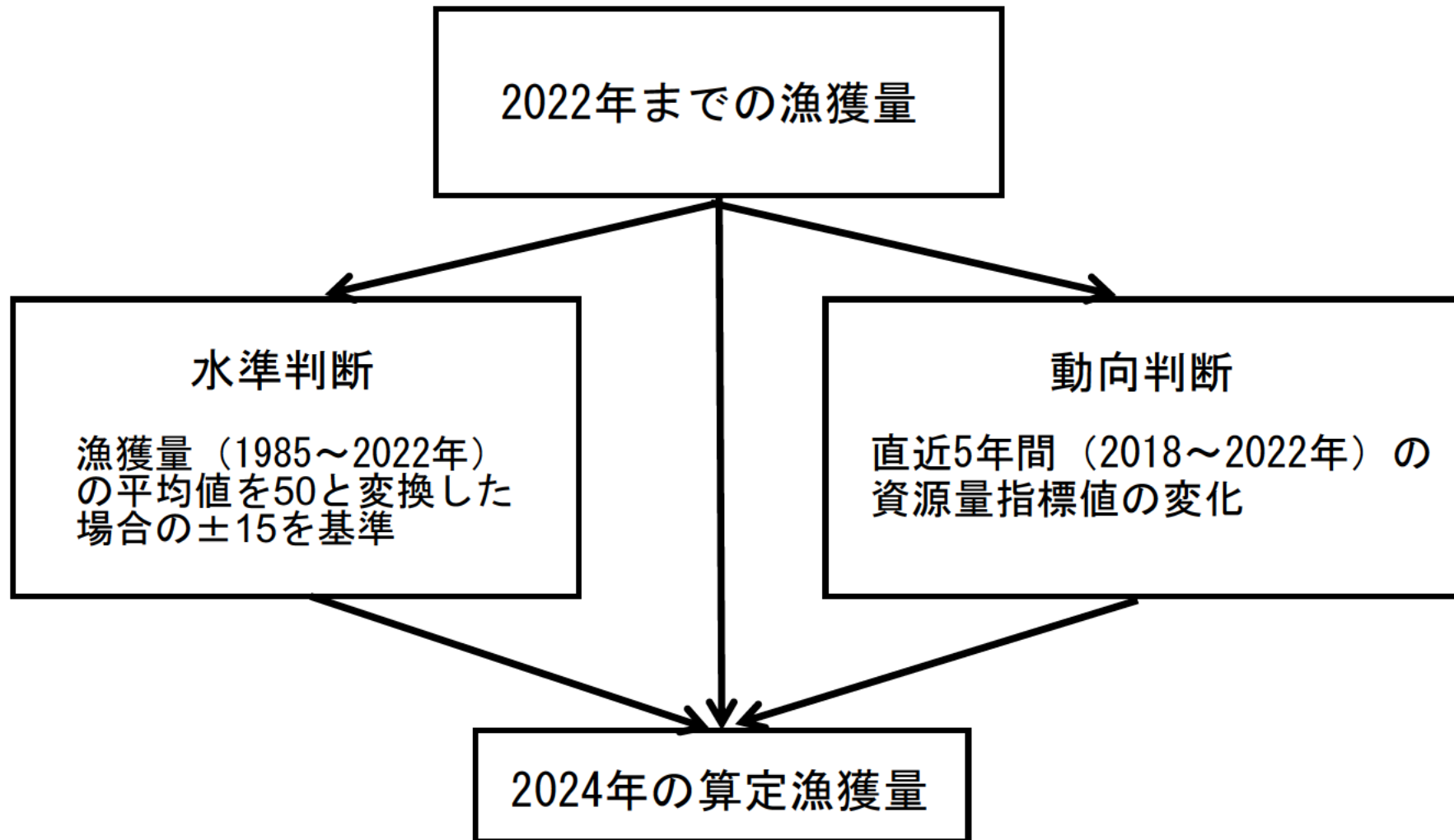
漁獲の動向②



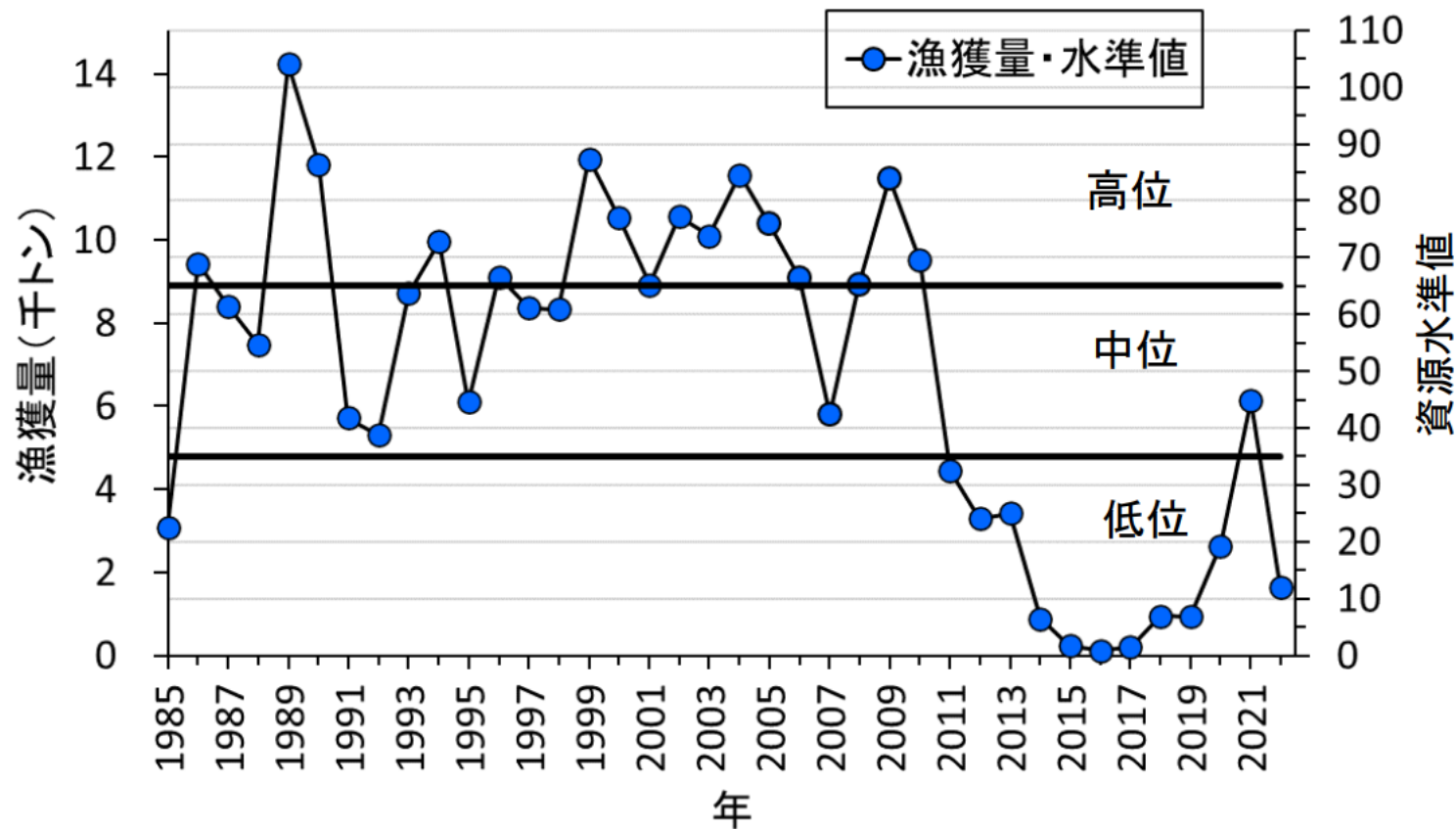
- 羅臼漁協所属の刺網漁船（例年漁獲の大半を占める）のトン数階層別一日あたり出漁隻数は、2016年まで減少傾向で推移、その後はおおむね横ばい傾向

※一日あたり出漁隻数：のべ出漁隻数を出漁日数で除したもの

資源評価の流れ



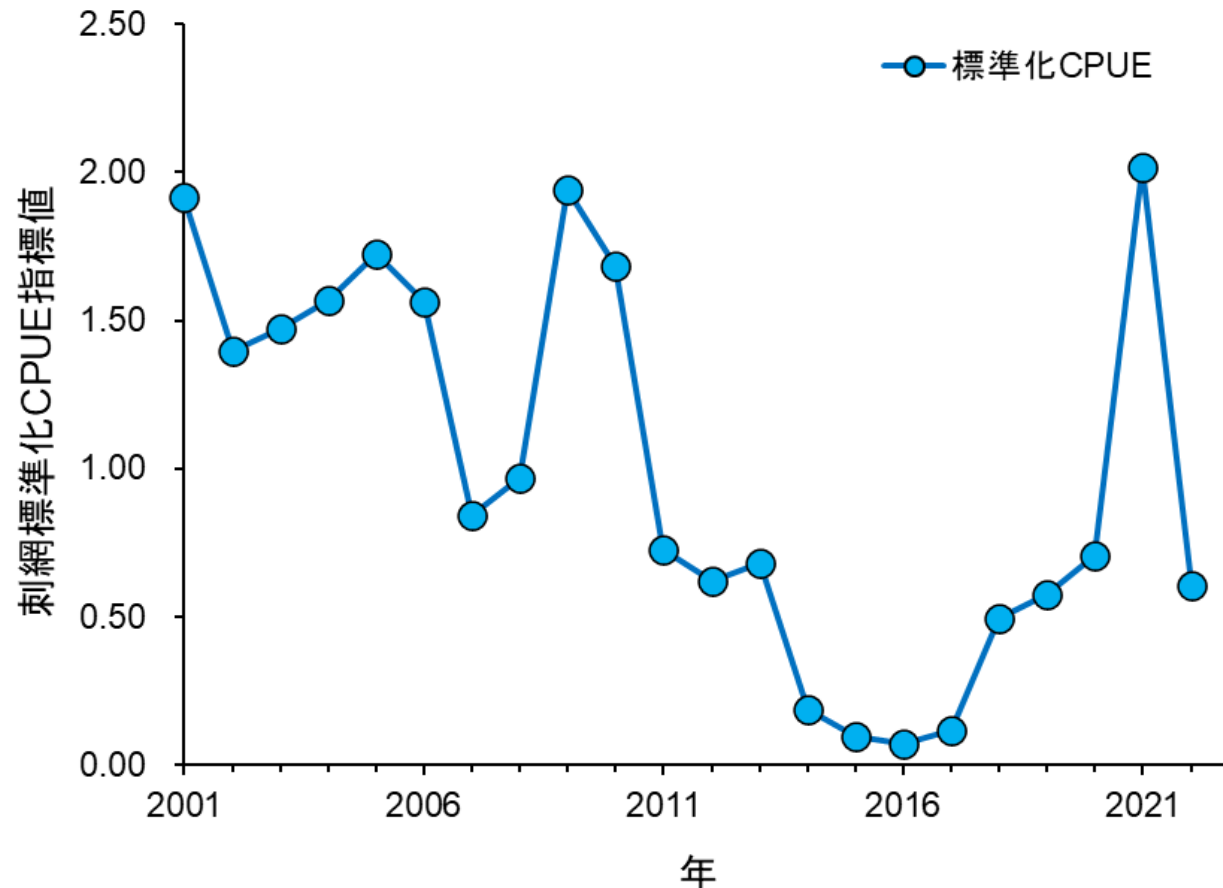
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：資源水準値35、中位／高位：資源水準値65
(1985年以降の漁獲量(安全操業除く)の平均値を50とし、各年の漁獲量の値を指数として算出)

- 資源水準：2022年の資源水準値は12であり「低位」

資源の動向②



- 2001年以降の羅臼漁協所属の刺網の標準化CPUEを資源量指標値として用いた
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「横ばい」

※標準化CPUE：操業月や漁船トン数による偏りを取り除いた、1操業当たりの漁獲量

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 漁獲量（安全操業除く）と羅臼の刺網漁業の標準化CPUEに基づいて資源状態（水準・動向）を判断した

2024年算定漁獲量

管理基準	Target/ Limit	2024年 算定漁獲量 (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの 増減%）
0.7・Cave3-yr・0.95	Target	1,860	-	-
	Limit	2,320	-	-

- ABC算定規則の2-1) に従い $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (Cave3-yrを使用し、かつ低位水準である場合の推奨値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間(2020~2022年)の平均漁獲量)
- γ_1 : 0.95 (直近3年間の資源量指標値の変動で求まる係数)